

令和6年度受講生の募集について

募集期間	令和6年7月1日(月)～7月31日(水)
受講期間	令和6年8月23日(金)～12月6日(金)
受講時間	10:00～16:30(12:30～13:30は昼休憩とします)
場所	【基礎編(座学)】8月23日～10月25日 会場(秋葉原) 【現場実習編】(1)現場体験実習(11月1日、11月8日) 他社 (2)現場改善実習(11月13日～12月6日) 所属企業 ※ 最終日(12月6日)の全体報告会は会場(秋葉原) ※ 状況等によりカリキュラムの内容が変更になる場合があります。
募集定員	10名
受講対象	■都内中小製造業の経営幹部の方、現場責任者または経営幹部候補の方 ■生産管理や生産技術に関する経験があり、生産性向上の取り組みについて、予備知識を有する方。 ■PC入力作業の経験がある方。(Excel・PowerPointを使った講義・資料作成があります) ※ 原則、入門コースを受講済みの方 ※ 業種業態等によってご受講いただけない場合があります
受講料	100,000円(税込／お一人につき)

東京都ものづくり生産性革新スクール(実践)受講企業の事例紹介

受講された企業の代表者と受講生にスクールで学ぶきっかけや、その後の活用状況について伺いました。是非、ご視聴ください。

【掲載企業】株式会社今野製作所、石原金属化工株式会社、武州工業株式会社、中西産業株式会社



スクール利用企業の声

株式会社今野製作所 執行役員 業務本部長 今野 三千代 氏

弊社は、企業理念『力をあわせる力がある』を基軸に、組織(チーム)を支える一人ひとりの成長を重視しています。このスクールは、社員の成長支援に有効と考え、弊社では計画的に派遣しています。スクールで体系的に学んだ知識や手法が社内での共通言語となり、現場改善・革新に取り組む体制が出来てきていると感じます。また、このスクールでは、座学で学んだことを実際の現場で、インストラクターの支援を受けながら取り組む現場実習もあり、全体最適の視点から業務を見直し、解決すべき課題を絞り込み、具体的な対策案、そして今後3ヵ月の展開計画まで提案する実習も大きな魅力です。さらに弊社では、スクール終了後インストラクター派遣制度を活用し、3ヵ月計画を実行しています。社内外からの協力を得て、力を合わせたことでより成果が上がる経験は、受講生に大きな学びとなりました。



山口証券印刷株式会社 副社長 山口 真司 氏



弊社はブリバイドカード等の有価証券印刷を中心に事業を行い、令和3年に100周年を迎えました。今後も引き続き企業としての「新化」が求められますが、そのためには中核人材の計画的かつ体系的な育成が急務であり、このTPIスクールを受講させることにしました。このスクールの良い点は、まず、藤本先生の『良い設計の良い流れ』に基づく、全体最適の視点(鳥の目)から、「モノと情報の流れ図」等を作成して問題点を的確に絞り込み、さらに細かく分析(虫の目)して真因を掴み改善を進める点にあり、素晴らしいと感じています。さらに、インストラクターの支援を受けながら、座学の内容を実際の現場で体験的に理解する実習まであることです。社内で『良い設計の良い流れ』が共通言語になることを期待しています。貴重な経験が出来るスクールとして、多くの企業で利用して欲しいと思います。



公益財団法人 東京都中小企業振興公社

総合支援部 生産性向上支援課

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-9
東京都産業労働局秋葉原庁舎5F

● JR「秋葉原駅」中央改札口徒歩1分

TEL:03-3251-7917

E-mail seisansei@tokyo-kosha.or.jp

ホームページ <http://www.tokyo-kosha.or.jp/>



令和6年6月作成。本紙の内容は、予告なく変更する場合がございます。

2024 8/23(金) 開講 TPI Tokyo Productivity Innovation School 改善なければ革新なし!

東京都ものづくり 生産性革新スクール

生産性を革新するための『良い流れ』づくりを学ぶ 実践コース (アドバンス)



実践コースで現場改善に
チャレンジしませんか?

STEP 1

現状把握

『全体最適』の
視点から現場を
現認する

STEP 2

課題抽出

成果につながる
真の『ボトルネック』
を抽出する

STEP 3

改善活動

淀み(問題点)を
除き『良い流れ』を
創出する



公益財団法人 東京都中小企業振興公社

『東京都ものづくり生産性革新スクール』とは？

新たな付加価値を生み出す中核人材を育成する

当スクールは中小企業の持続的な成長において、新たな付加価値を生み出す「生産性の革新」を担う「中核人材」の育成を目的として平成28年に開講し、本年で第9期目を迎えました。この間にも、技術革新やデジタル技術の導入は進みましたが、新型コロナウイルスの感染拡大、さらに原材料価格や光熱費の高騰により、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、生産性革新の重要性はますます高まっています。このような状況において、生産性を革新する方策として、『良い設計の良い流れ』を基軸とする「東京都ものづくり生産性革新スクール」実践(アドバンス)コースを開講します。

「東京都ものづくり生産性革新スクール」の構成

【入門コース】と【実践コース】により構成され、受講目的によりコースを選択し、受講することも可能です。

STEP 1

入門コース
(5日間)

基本知識から
学びたい方

STEP 2

実践コース(19日間)

より実践的に学びたい方

基礎編(10日間)
会場で実施
(リアル)

現場活用編(9日間)
研修先企業(他社)と所属企業で実施
(リアル)

生産性向上の基礎を
体系的に学ぶ

基礎編で学んだことを
現場で活用する

生産性向上に関する初歩的なレベルの知識を有する方を対象として開催します。生産性向上のための現場改善手法・考え方を体系的に学び、自社の現場で実習インストラクターの指導を受けながら取組み、実践力を養います。

入門コースは実践コースの事前学習の場(プレスクール)の場になりますので、実践コースの前に入門コースを受講して頂くことが望ましいです。

STEP UP

自社での実践！

現場改善の
促進で
生産性向上へ

現場改善
アドバイザー派遣が
利用可能

『東京都ものづくり生産性革新スクール』の特徴

当スクールでは、藤本隆宏氏(早稲田大学教授・東京大学名誉教授)のものづくり理論の基軸である『良い設計の良い流れ』をベースとした現場実習を含む体系的な研修プログラムをご用意しています。また、講義については、現場支援の経験が豊富な講師陣が担当いたします。スクール修了後、修了生の皆様には改善活動の中心となって活躍されることを期待します。なお、各期の修了生が自社での取組みや成果を発表して相互交流する機会として定石研究会も設けています。



- 1 全体最適を目指し、藤本隆宏教授の『良い設計の良い流れ』を基軸にした現場改善活動。
- 2 座学で学んだ体系的な知識を、自社での現場改善活動を通じて、体験的に理解できる。
- 3 スクール修了後、経験豊富なアドバイザー派遣による継続的なフォローアップも可能。

『良い設計の良い流れ』とは

現場とは、付加価値の流れる場所であり、付加価値は設計情報に宿り、「良い設計」とは付加価値を拡大することであり、「良い流れ」とは顧客へ向かう付加価値の流れの淀み(問題点、ムダ等)を発見、改善することです。生産性を向上させるためには、ロボットやITを導入する前に、まず現場の流れを妨げる要因(淀み)を取り除き、現場に『良い設計の良い流れ』を創出することが必要です。※良い設計とは、仕事の進め方・やり方、仕事のデザイン等を含め、広く考えています。

申込み・受講の流れ

1. お申込み

URLもしくはQRコードよりHPにアクセスいただき、申請フォームよりご応募ください。

申込締切 7月31日(水)

[URL]
https://www.tokyo-kosha.or.jp/support/shien/genbakaizen_suishin/monodukuri_school_jissen.html

[QRコード]

2. 受付

順次お申込みを受け付けます。
※受講対象に該当しない企業様はお断りする場合があります。

3. 受講決定／受講料振込

受講が決定された方には決定通知を送付します。決定通知後、開講日までに指定する口座へ受講料をお振込みください

4. 開講

受講期間は令和6年8月23日(金)から12月6日(金)までの全19日間です。各受講日毎に1週間前を目途に教材を郵送致します。

5. 修了

※全体の出席率が8割に満たない場合、修了証を発行できない場合があります。

6. 自社の生産性革新へ

7. 定石研究会(対象:全修了生)

第9期カリキュラムと講師

特色

「良い設計の良い流れ」を意識した体系的なプログラム

グループワーク、事例研究を通して実践的に学べるカリキュラム

前半の基礎編で得た知識をすぐに自社の改善に活かせる構成

実践コース(アドバンスコース) 座学で、改善手法の基礎と活用方法を学ぶ

基礎編(座学)[実践(アドバンス)コースでは、座学で改善手法の基礎を学び、現場改善実習で、学んだ手法を具体的に活用していただきます。]											
No.	実施日	場所	ねらい	午 前			午 後				
				10:00		12:30	13:30		16:00 16:15		
1	8月23日(金)	会場	概論	開講式	自己紹介・所属企業の紹介(プレゼン)		ものづくり基礎概念(1)		ものづくり基礎概念(2)		
2	8月30日(金)	座学(1) 会場(秋葉原)	基礎	QCの基礎知識と活用(QC七つ道具、新QC七つ道具より)						事務 連絡	
3	9月6日(金)			IEの基礎知識と活用(IEとは、分析手法の基礎、事例紹介)							
4	9月13日(金)			標準作業と標準時間(標準とは、演習による理解)			ものづくり会計(お金の良い流れとは)				
5	9月20日(金)			現場改善の進め方(基礎編1:現状把握と問題点抽出)			「ものと情報の流れ図」作成実習(改善事例を活用したグループ実習)				まとめ
6	9月27日(金)			現場改善の進め方(基礎編2:重点課題抽出と改善策)			「兆候シートと改善案」作成実習(改善事例を活用したグループ実習)				まとめ
7	10月4日(金)	座学(2) 会場(秋葉原)	活用	特別講義1(生産性改善の流れ:良い設計の良い流れ)			納期・工程		在庫管理		
8	10月11日(金)			現場改善の進め方(所属企業の「ものと情報の流れ図」作成)			報告会(相互交流)		企業の改善事例から学ぶ		
9	10月18日(金)			特別講義2(IoT/DX化の基礎:企業の実例から学ぶ)			良い流れを創る技能伝承		設備保全管理(企業の具体的な実践事例から学ぶ)		
10	10月25日(金)			全体最適による問題解決(TOC理論)					現場体験実習・現場改善実習(所属企業)説明		

現場実習編 [所属企業ごとに改善テーマを決め、インストラクターの支援を受けながら取組みます。]								
11	11月1日(金)	現場実習	現場体験実習 (他社)	概要説明	現場見学	現状把握(全体の流れを把握)		事務連絡
12	11月8日(金)	体験実習先		問題点抽出(流れを悪くしている点(淀み)を探る)		まとめ	報告(意見交換)	
13	11月13日(水)	現場実習 (2) 所属企業	現場改善実習 (所属企業)	企業・現場実習(1-1)	現状把握と問題点抽出			
14	11月15日(金)			企業・現場実習(1-2)	ものと情報の流れ図(現状)・兆候の絞込み			
15	11月20日(水)			企業・現場実習(2-1)	問題点の深掘り			
16	11月22日(金)			企業・現場実習(2-2)	兆候シート・改善策の検討	報告資料案作成		
17	11月27日(水)			企業・現場実習(3-1)	ものと情報の流れ図(狙うべき姿)	報告資料作成		
18	11月29日(金)			企業・現場実習(3-2)	報告資料作成	現場実習・報告会(各実習先)		
19	12月6日(金)			全体報告会		現場実習・報告会(全体)		

※報告会で発表して頂く資料は、受講生自身でPCにて作成して頂く必要があります。
※状況等によりカリキュラムの内容が変更になる場合があります。

講師紹介

【主任講師】 竹中 秀夫

グンゼ株出身。現場での生産管理・改善活動を経て、生産性向上、教育、人事と広範囲な業務に従事。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。

【講師】 国谷 晃雄

キャノン株取手工場生産技術部長他、ものづくり現場を歴任。国内外において生産性革新活動を支援。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。

【講師】 飛田 甲次郎

元オムロン株執行役員常務。関西IE協会副会長などを歴任。全体最適のマネジメントに関する最新知識をわかりやすく説明することに定評がある。

【講師】 伊藤 雄三

米国系精密濾過フィルターメーカーにて、経営全般、工場運営に関与。企業の現場改善指導や経営アドバイスを実施。ものづくりシニア塾修了。

【講師】 堀井 求

キャノン株出身。ものづくりにおける「淀みのない流れづくり改善」をモットーに現場改善に従事。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。

【講師】 終 紫乃

愛知工業大学・経営学部経営学科教授。博士(経営情報科学)、専門はものづくり 管理会計など。企業現場での諸論・分析から、理論の構築と検証を実施。

【講師】 林 英夫

武州工業株式会社 相談役
東京都青梅市にある同社の前社長。ITコーディネータ、日本商工会議所デジタル化推進専門委員会委員、青梅商工会議所 副会頭等を務め、広く企業のDX推進に取り組んでいる。

【講師】 岸田 英俊

株ブリヂストンにて、設備開発、工場建設、生産技術者教育に従事。北米、中国にも勤務、中国工場董事長。東京大学ものづくりインストラクター養成スクール修了。

【講師】 石戸谷 徹

大崎電気工業株出身。約30年間、新製品の研究開発、生産ラインの立ち上げ、製品のマーケティングなどを現場にて従事。ものづくりシニア塾 修了。

※講義(座学)担当講師及びインストラクターは、参加人員等により増員、変更になる場合があります。